

《ゼミ紹介》

岩 永 ゼ ミ

われわれの感性に訴えないものは、われわれの思考を
長くわずらわすこともない——ルー・ザロメ

社会学科 岩永真治

1. ゼミの活動

“SAME”*

このゼミナールのテーマは、「まちづくり」「地域づくり」です。それが、離島になれば「島づくり」、また商店街になれば「商店街活性化」と変化します。ゼミでやっていることは、基本的には大都市都心部での「まちづくり」と離島での「地域づくり」のお手伝いです。

前者は現在、東京都江東区亀戸地区で、後者は毎年、沖縄県八重山郡与那国町で実施されています。江東区亀戸では、活気がなくなっている香取大門前商店街の再活性化に、とりわけ近所に2012年にオープン予定の「東京スカイツリー」による集客の可能性を念頭に、地元の商店街、他大学の学生チーム、江東区、三井住友系シンクタンク・日本総合研究所とともに取り組んでいます。現在進行中の「レトロ商店街づくり」は、わたしたち大学のゼミと地元の商店街が実施したワークショップを通じてかたちを与えられてきたまちづくりの理念です。

一方、与那国町では、毎年9月の中旬に一週間から十日程度の滞在で、商店街のない人間の生活環境を知り、また地元の比川集落ではこれまでに「みかんの里づくり」などの地域づくりのアイデアとその実現に貢献してきました。ここは、テレビ・ドラマ「ドクター・コトの診療所」の撮影現場でもあり、「診療所」も、撮影に使用された「観光資源」として残されています。その活用法についても、地元の人たちと話し合ってきました。ここでの地域づくりの作業は、国境を越えて、与那

国町の姉妹都市、台湾・花蓮市との交流拡大につながりつつあり、この島でのゼミの活動が、国境を越えた地域交流に貢献できる可能性も広がってきました。

また、ゼミでは、グローバルな時代の大都市における複雑な文化体験になれることを目的として、海外研修旅行を実施しています。これまでベトナム、イタリアなどの大都市や古都を訪ねてきましたが、2011年度からは、ドイツのハンブルク大学で日本語や日本文化を学んでいる学生たちと交流をはじめました。2011年9月15～22日に実施されたハンブルクでの交流会（日本語で日本の文化を4グループに分かれて紹介）は、その前後に学生たちが訪れた他のハンザ同盟都市（リュベック、リュネブルグなど）や首都ベルリンでの都市体験とあわせて、ゼミ生にとっては貴重な経験となりました。グローバル化時代を生きるナショナルな自己の問題、グローバルな観点からみえてくる東京都心部の商店街再活性化の問題など、学生たちは多くのリアルでホットな社会文化的あるいは経済的問題にむきあうことができました。

2012年度は、ヨーロッパ大陸の北、北海に臨むハンブルク大学の学生にくわえて、大陸の南、アドリア海から中東、アフリカへと開かれたヴェネツィア大学の学生たちとも、日本語で文化交流をする予定です。“Carpe diem”（寸暇を惜しめ！）、世界は広く、学ぶことは多い、と学生には言っています。（岩永真治）

2. 長野県小諸市で春合宿：5月21・22日－明治学院大学地域連携事業の一環として－

明学OB島崎藤村ゆかりの土地小諸にてまち歩き (*^_^*)。まちの活性化などをテーマにグループに分かれてワークショップをしました!!



懐古園に島崎藤村の銅像発見!(^^)!天気もよくて気持ちよかったです★

各グループに分かれてこれからの小諸について考えたことをまとめ、小諸市役所の方たちにプレゼン!!
学生ならではの発想力を活かし、市役所の方たちと意見交換をしました。



旅館で飼われていたヤギ\(^o^)/



駐車場ガーデンにてお昼〜♪



* 日程 *

1日目：集合→移動（バス）→街歩き→ご飯（飲み会）

2日目：午前中プレゼン準備，午後プレゼン→移動（バス）→解散

（滝川史織・鐘江菜月）

3. ドイツへの海外研修旅行

岩永ゼミでは海外研修旅行を行っています。2011年度は、9月15日～9月22日の8日間、岩永先生と、東京都江東区亀戸のまちづくりプロジェクトでお世話になっている喜連川^{きれかわ}さん夫妻とともにドイツを訪れました。この研修旅行のテーマは「ヨーロッパ統合のなかのドイツーハンザ同盟諸都市の過去と現在を歩く8日間一」と名付けられ、ハンブルクを始めとしたドイツ北部を中心に巡りました。ハンブルクといってもあまり馴染みがない人も多いと思うので簡単に説明すると、ハンブルクとは、ドイツ北部にあるドイツ第3の都市です。12世紀に神聖ローマ帝国内の自治都市となって以来ハンブルクは北ドイツを代表する湾岸都市として栄えました。中世ヨーロッパの交易を支配したハンザ同盟の有力都市のひとつでした。19世紀の統一ドイツ誕生後も自由港の立場を維持し、ドイツ最大の貿易港として栄えました。また、ハンブルクは最近になり、敷地面積が40%増えた

という夢のような街です。これは、長らく「自由港」として使われてきた港湾地区の敷地が不要になり都市開発用地となったためでした。その敷地は157ヘクタールにも及び、市庁舎からも歩いてくることができるほどの中心部に近い場所です。これにより、今のハンブルクは建設ラッシュが続き、雇用の創設では街全体が活気に溢れています。そんな、ヨーロッパの有力港でありドイツ経済を支える物流基地としての役割も担っています。

成田空港からモスクワで乗り継いでフランクフルトに向かい、約13時間。フランクフルトで1泊、2日めはフランクフルトから列車でハンブルクに向かい、夜は皆で北ドイツ料理を食べました。3日めはグループに分かれての自由行動でした。おもにバルト海の女王と呼ばれた古都リュベックの町を歩きました。4日めは列車で他のハンザ同盟都市等の街歩きに向かいました。北ドイツの真珠と謳われる木組みの家の美しいツェレ、絵本の中のような歴史の町リュネブルクを訪れました。5日めはハンブルク大学で日本の食事、アニメ、ファッション、書道の4グループに分かれて



帰国の途につく前、ハンブルク空港で



ハンブルク大学で交流会



ベルリンの中央駅（ハウプトバンホッフ）で

準備してきた日本の文化についてのプレゼンテーションとディスカッションを行いました。その後ハンブルク大学の学生にハンブルクの町を案内してもらい、ホッフプロイハウスという大衆居酒屋で交流会をしました。6日めは急遽、ベルリンへ向かいました。ベルリンの壁などの名所を回り、7日めは帰路につく、そんなスケジュールでした。

今回の研修旅行の最大の目玉はなんといってもハンブルク大学の学生との交流にあったと思います。個人的にドイツ語やドイツの文化を学んでいたわけではないので、詳しい知識があるわけではないのですが、ドイツは日本とは違いマイスター制度などがあり職人になる人間が多いとドイツの学生から聞きました。そんな中で、大学に通い、勉強をする生徒たちは、かなり学ぶことに対し貪欲で熱意があるのではないのでしょうか。日本に興味を持っている学生たちとの交流であったため、どの学生も熱心に私たちのプレゼンを聞いてくれたと思います。食事の班は実際に日本のお菓子や漬物などを持っていき、ハンブルク大学の学生たちに食べてもらいながら日本特有の食文化、おせちについてのプレゼンテーションをしました。アニメの班は、世界的に有名な日本の映画監督・宮崎駿の作品「耳をすませば」を例に挙げ、実際に映像を見ながらプレゼンテーションを行ないました。海外のアニメとは作風の違う日本のアニメは、ドイツの学生にとってはとても興味深いもののようなのでした。また、ファッションの班は、今（2011）

年の日本の若者の流行をもとに、パワーポイントでプレゼンテーションをしました。いまや、世界にも注目されている日本の若者のファッションは、シンプルな服装を好むドイツ人にとっても個性的に見えたようでした。書道の班は、実際にゼミ生がお手本となり、書道をしている姿を見せてドイツの学生たちにも書いてもらうというものでした。ドイツの学生は日本語を学んでいる人がほとんどだったので、コミュニケーションには困ることもなく、お互いの国の文化について語りあうことができ、とても有意義な時間を過ごせたと思います。しかし、ドイツの学生から日本について尋ねられて、答えられないことも多々あったので、まずは私たちが日本のことをもっと知らなければならぬと強く実感しました。

今回私たちが生で見えてきたハンブルクの街並みは、今実際にお手伝いに行っている亀戸のまちづくりとは規模も違い、課題は直結しないかもしれませんが、ハンブルクという特殊な性質を持つ都市のまちづくりはゼミ生に刺激をもたらしたと思います。とくに、新しいハーフェン・シティーではそこに残る古い煉瓦の倉庫を生かして斬新な建物を変身させる試みも行われています。亀戸のプロジェクトは「レトロ商店街」をテーマにあげていますし、参考になる部分もたくさんあったと思います。今回実際に感じたことを、今後のゼミ活動に取り入れていくことができればと思います。

（浅見恵利）

4. 亀戸香取勝運商店街の町おこし活動ー夏祭りを手伝ってー

東北支援・子供プログラム・かめじゃないか踊り・情報発信の4つのチームに分かれて、“亀戸香取勝運商店街”のイベントの企画・運営をお手伝いしました。



○東北支援チーム○



これまでの活動内容として、石巻の缶詰工場「木の屋」のラベルなし缶詰の販売提案、交渉や石巻の渡波小学校で支援活動をしている「ワタノハスマイル」が商品開発した缶バッジ販売交渉をしてきました。

さて、そんな東北支援チームは当日、缶詰工場でラベルがはがれ商品として出荷できなくなってしまったものを復興支援として青森物産ショップ『むつ下北』さんの店頭で販売しました！
缶詰も完売し、大盛況でした！

○子供プログラムチーム○



子どもチームはモザイクアートの制作を企画しました！これは、こどもたちに協力してもらって手型、足型などで大きな絵を描くという企画で、こどもたちにはいくつかの小さな布に手型、足型をつけてもらい、それを学生が繋げて大きな1つの絵にします！

完成するとひとつの絵が浮き出る様になっていますが、完成するまでは内緒にし、二日目のお祭りの時にお披露目しました。

○亀じゃないか踊りチーム○

亀じゃないか踊りチームは、勝運商店街で新たに考案された亀じゃないか踊りをお祭りで初披露しました。学生たちは、当日まで何度か商店街で練習し、朝早くラジオ体操の時間に子供たちに踊りを教えたりと意欲的に活動しました！



○情報発信チーム○

情報発信チームは、勝運商店街の子ども祭りの告知のために、twitterを立ち上げ、各チームの活動報告のブログ記事の更新、レインボーFMさんにてラジオ収録などを行いました！ラジオ出演は初めての経験ということで緊張しましたが、楽しくできました。当日の活動としてはラジオ収録のほかに、写真撮影・ビデオ撮影などを行いました！

(下道あゆみ・海上萌子)

5. ゼミ生へのアンケート

Q1 このゼミを受講しようとした理由は何ですか？

- ・おもしろそうだから。まちづくりに興味があったから。
- ・まず、このゼミで一番惹かれたのは、海外研修があるということ。でも、その他のゼミ活動もすごく楽しそうで、他のゼミでは味わうことのできない楽しさを持っていると思ったのが理由。
- ・地域づくりに興味があったから。ドイツ旅行に惹かれた。
- ・自分の興味のある内容だったため。海外旅行が好きなので、ゼミの研修旅行の行き先がドイツということにも惹かれた。
- ・先生の文才に惹かれた。
- ・授業内に、フィールドワークを行う唯一のゼミであった。
- ・海外研修があり、自分達の手で街づくり、商店街づくりに貢献できるというアクティブさが魅力的だったから。
- ・課外での授業など、たくさんの人々に関わることや、ヨーロッパに行って、直接海外の街並みに触れるということに魅力を感じた。
- ・課外活動が多いということに魅力を感じた。
- ・ガイダンスでもらった冊子を読んだ時に、一番面白そうだと思ったから。
- ・まちづくりに興味があり、外に出て体験する授業に惹かれた。

Q2 ゼミに入って考え方や興味は、どのように変わりましたか？

- ・まちづくりと言っても客観的に考えていくものだと思っていたので、自分たちが、実際にイベントの企画を練って手伝っていくことは、人ごとではないと思った。今は、本当に真剣に取り組むことができている。
- ・いくつかの地域に触れ、普段から地域・まちが

どのようなコンセプトで発展・活性化しているのかを考えるようになった。

- ・自分が住んでいる地域や商店街のことも、前よりも深く考えるようになった。
- ・いままで接したことのないタイプの人（商店街の人やドイツの学生など）と接することができたのでよかった。新しい視点で物事を考えられるようになった。
- ・一番は、ドイツに行って視野が広がったこと。グローバルなまなざしで物事を見られるようになった。
- ・異国の文化に触れることで、日本との違いを感じることができた。
- ・地球規模で人びとと関わる大切さを学んだ。
- ・多面的に物事を捉えるようになった。
- ・とくになし。強いて言うなら、困難はつきもの。地域で大人と交わるのは難しいと思った。
- ・まだ変われておりません。今後に期待！

Q3 これからゼミを受講する後輩へ一言！

- ・他のゼミでは体験することができないことを、たくさん学べるゼミです。他のゼミ生との仲も深まるし、楽しい時間を過ごせます。
- ・教授もゼミ生も個性的な人がいっぱいいて、とても楽しいゼミです！是非、岩永ゼミへ!!
- ・大変なことはたくさんあります。がんばって下さい。
- ・絶対に楽しいゼミなので、是非!!
- ・ゼミ生同士、仲良くなれるので楽しい。
- ・頑張ろう。
- ・お金と時間を必要とします。が、知識は何もいらない。コミュ力が必要です！
- ・お金はかかる。けれど、貴重な経験ができます！土日もアクティブに行ける人は是非!!!
- ・土日などを使って課外での活動を行うので、あらかじめ予定を確認し、あけておいた方が良いと思います。
- ・ゼミをどう楽しむかは自分次第です！
- ・すべては自分次第。

2011年度ゼミ（演習1）活動の概要一年間スケジュールー

2011年4月 前期ゼミ開始

5月中旬 **長野県小諸市で地域づくりのお手伝いをワークショップ形式で行う。1泊2日（春合宿）**

6～7月 東京都江東区亀戸香取大門前商店街の夏祭りの準備を始める。

7月 東京都中央区月島のまち歩き。元祖“もんじゃ”を食べる。

8月 亀戸香取の夏祭りを地域の人と実施。課題も残る。

9月 **ドイツ・ハンブルク研修旅行。6泊8日**

10月 後期ゼミ開始。11月の香取での秋祭りの準備を始める。

11月 香取祭り“秋の陣”実施。夏祭りを越える成功。

12月初旬 修善寺ラフォーレでゼミ合宿。アルジュン・アパデュライ『さまよえる近代』を読み、亀戸での地域づくりの現実と重ね合わせて議論し、理解する。2泊3日（秋合宿）

高輪まち歩き実施。ハンガリー料理を食べる。

12月中旬 スイス人留学生のスイスに関するプレゼンテーションを英語で聴く。

2012年1月 **亀戸中央通り商店街のまち歩きと地域住民とのワークショップ。**



修善寺ラフォーレで秋合宿：12月9・10・11日

*SALVE^{サルヴェ}は、ラテン語で「ようこそ」の意味。